

香川県総合防除実践指標（トマト）

No.	予防	判断	防除	実践項目 対象病害虫・雑草	実践ポイント	点数	チェック欄	
							実施目標	実施状況
1	○			抵抗性品種等の導入	萎凋病または青枯病抵抗性台木、葉かび病、黄化葉巻病、モザイク病の耐病性品種を導入する。	1		
2	○			育苗圃周辺の管理	アブラムシ類、ハモグリバエ類、ハダニ類等の侵入防止のため、周辺雑草を除去する。	1		
3	○				黄化葉巻病（タバココナジラミ）の伝染源となる野生えのトマト等を除去する。	1		
4	○	○	○	健全苗の育成	以下の事項のいずれか又は両方を実施して健苗育成に努め、病気が発生した苗は早く処分する。 （一方の場合は1点、両方場合は2点） ・ 苗の種類に応じた適正な量を播種し、育苗中の温湿度管理に注意する ・ 育苗圃周辺を防虫ネットで遮断し害虫の飛来を防ぐ	1又は2		
5	○			本圃周辺の管理	アブラムシ類、ハモグリバエ類、ハダニ類等の侵入防止のため、周辺雑草を除去する。	1		
6	○				黄化葉巻病（タバココナジラミ）の伝染源となる野生えのトマト等を除去する。	1		
7	○			圃場の準備	太陽熱による土壌消毒を実施する。	1		
8	○				高畝にするなど排水対策を実施する。	1		
9			○	雑草対策	マルチなど化学農薬によらない雑草管理対策を実施する。	1		
10		○		病害虫発生予察情報の確認	病害虫防除所が発表する発生予察情報入手し、確認する。	1		
11		○	○	防除要否の判断	ハスモンヨトウ、タバコガ類、ハダニ類、アブラムシ類、トマトサビダニの発生調査を実施し、防除が必要と判断された場合に防除を実施する。	1		
12		○	○		ハモグリバエ類、コナジラミ類を対象に黄色粘着トラップを設置し、防除が必要と判断された場合に防除を実施する。	1		
13	○			灰色かび病、菌核病共通対策	施設を紫外線除去フィルムで被覆する。	1		
14	○			葉かび病、すすかび病、灰色かび病共通対策	密植しない。	1		
15	○			葉かび病、すすかび病、灰色かび病、疫病共通対策	換気をはかり過湿を防ぐ。	1		
16	○		○		被害植物が付着した資材は十分に消毒する。	1		
17	○		○	菌核病、疫病共通対策	発病果、発病茎は見つけ次第除去し、圃場外へ持ち出し適正に処分する。	1		
18	○		○	萎凋病、青枯病、モザイク病、黄化葉巻病共通対策	発病株は見つけ次第除去し、圃場外へ持ち出し適正に処分する。	1		
19			○	黄化葉巻病対策 （タバココナジラミ対策）	摘葉、摘葉した残渣や廃棄する果実はビニール袋等に密封して処分する。	1		
20			○		8月定植のミニトマトにおいて、10月までは感染・発病による収量への影響が大きいため、防除を徹底する。	1		
21			○		コナジラミ類の活動が低下する厳寒期に防除を実施する。	1		
22			○		農薬を散布する際、防除効果を高めることが確認されている展着剤を加用する。	1		
23			○		収穫終了後に蒸し込みを行い、コナジラミ類を死滅させる。（ハモグリバエ類にも有効）	1		
24			○		天敵を利用する。	1		
25	○			コナジラミ類、ハモグリバエ類、アブラムシ類、ハスモンヨトウ、タバコガ類共通対策	ハウス開口部を防虫ネットで被覆し、成虫の飛来・産卵を防ぐ。 0.2～0.4mm目合い（コナジラミ類、ハモグリバエ類、アブラムシ類、ハスモンヨトウ、タバコガ類に有効）で被覆すれば4点 0.8mm目合い（ハモグリバエ類、アブラムシ類、ハスモンヨトウ、タバコガ類に有効）で被覆すれば3点 1mm目合い（アブラムシ類、ハスモンヨトウ、タバコガ類に有効）で被覆すれば2点 4mm目合い（ハスモンヨトウ、タバコガ類に有効）で被覆すれば1点 0.4mm目合い以下のネットで被覆する際に、高温対策として遮光資材を利用すれば1点。	1～5		
26	○			ハスモンヨトウ、タバコガ類共通対策	防虫ネットを利用していないハウスでは、黄色蛍光灯を設置し、成虫の飛来・産卵を防ぐ。	1		
27		○	○	農薬の使用全般	十分な薬効が得られる範囲で最少の使用量となる最適な散布方法を検討した上で使用量・散布方法を決定する。	1		
28		○	○		当該病害虫・雑草に効果のある複数の農薬がある場合には、天敵など環境に影響の少ない農薬を選択する。	1		
29		○	○		適切な飛散防止措置を講じた上で農薬を使用する。	1		
30		○	○		病害虫の発生生態を充分認識した上、発生部位に農薬がかかるように散布する。	1		
31		○	○		作用機作の異なる農薬をローテーションで使用する。	1		
32		○	○		薬剤感受性検定の結果を確認し、当該地域の病害虫において薬剤抵抗性の発達が確認されている農薬は使用しない。	1		
33		○		作業日誌（重）	病害虫・雑草の発生状況、農薬を使用した場合の農薬の名称、使用時期、使用量、散布方法等の栽培管理状況を作業日誌として別途記録する。	1		
（重）栽培管理状況について記録することは重要な実践ポイント。								
					合計点数			
					合計実践ポイント数			
					評価結果			
					38点、33ポイント			